

＜仮訳＞

第４回日・モロッコ合同委員会

共同発表

２０１８年４月２６日、東京において、佐藤正久日本国外務副大臣及びムーニア・ブセッタ・モロッコ王国外務・国際協力大臣付閣外大臣の共同議長の下、第４回日・モロッコ合同委員会が開催された。この会合は、二国間関係全般を総括し、日本とモロッコ王国との協力関係の更なる強化の方途を検討し、両国の願望と両国の連携のため設定された目的を実現させるために開催された。

この機会に、双方は、皇室・王室間の関係に象徴される両国間の相互尊重を歓迎し、６０年以上にわたる良好な関係に満足の意を表明した。

双方は、マグレブ（北アフリカ）諸国では初、アフリカでは６番目となる日本貿易振興機構（JETRO）事務所の２０１４年のラバトにおける開設及びモロッコ王国に投資する日本企業の増加に象徴される、２０１４年にラバトで開催された前回の合同委員会以降の二国間関係の進展を歓迎した。

双方は、日・モロッコ投資協定交渉が成功裡に妥結したことを歓迎し、この協定が日・モロッコ経済パートナーシップの新たな展望を開くことによって活発な協力を更に強化するものであることを強調しつつ、近い将来、この協定に署名する意思を確認した。

また、双方は、両国政府及び両国国民の期待に応えるべく、二国間の多層的な協力関係を様々なレベルにおいて促進するため、また、日・モロッコ・パートナーシップを更なる高みに引き上げるという共通の目的を追求するため、努力を惜しまない決意と約束を表明した。

双方は、両国に存在する相乗効果の機会を利用して、両国の経済の潜在性を最大限活用する必要性を確認した。

モロッコ側は、両国のビジネス・コミュニティに対し、双方向における貿易・投資の動きを強化・促進し、両国間の交流の機会を増加し、両国で開催される関連フェアや展示会に参加し、グローバル・ビジネス（自動車産業、航空産業、農業等）分野におけるジョイント・ベンチャーの新たなチャンスを見出すよう奨励した。

モロッコ側は、モロッコ王国の産業化及び経済成長の重要性を再度強調し、日本の民間部門がモロッコ王国により一層関与することへの期待を表明した。日本側は、既存の対話の枠組み内での様々な機会における情報発信やビジネス・マッチングの奨励を通じ、モロッコ王国における日本企業のビジネス活動を促進するためのモロッコ側の努力を支援する意思を表明した。

モロッコ側は、モロッコ王国がアフリカ連合に復帰したことから、アフリカ各国との関係強化やウィン・ウィン・アプローチ・パートナーシップを通じたアフリカ大陸の発展に対しモロッコ王国が付与する重要性を強調した。

モロッコ側は、また、アフリカ各国の経済・社会開発のための日本の支援、すなわちT I C A Dプロセスを通じた支援を賞賛した。双方は、アフリカ各国の利益のため、日本とモロッコ王国との間で1998年に開始された三角協力の成果を賞賛し、他のアフリカ各国の開発に一層貢献するため、この協力の範囲を拡大する重要性を確認した。

日本側は、モロッコ王国外務・国際協力大臣から日本国外務大臣に宛てられた、モロッコ王国訪問への招待を歓迎した。具体的な日程は、外交チャネルを通じ調整される。

佐藤正久日本国外務副大臣

ムーニア・ブセッタ・モロッコ王国
外務・国際協力大臣付閣外大臣

東京、2018年4月26日